

I これからの幼児教育の充実に向けて

1 幼児期の教育・保育の中で大切にしたいこと

幼児期の教育・保育は、幼稚園・保育所・認定こども園等、様々な幼児教育機関において営まれています。どこにおいても大切にしたいことは、常に子どもを中心に考え、子どもにとって幼児期にふさわしい生活の中で、発達に必要な体験を積み重ねていくことができるよう努めていくことです。

そのために私たち保育者(※)は、子どもたちを取り巻く状況や、これからの幼児教育の方向を見据え、現場に求められている社会のニーズを十分に把握した上で、幼児期の教育・保育の基本を捉え直すとともに、具体的な手だてを考え、質の高い教育・保育の実現にしっかりと取り組んでいくことが重要です。

※保育者

幼稚園教諭・保育士・保育教諭を
合わせた名称とする

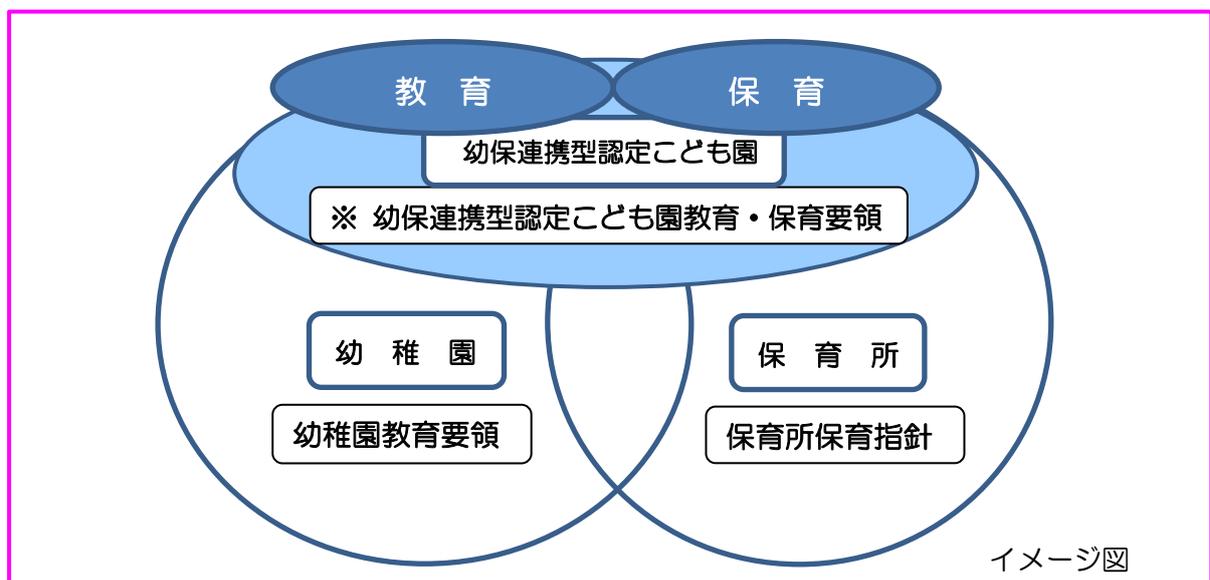
幼稚園 幼稚園教諭
保育所 保育士

幼保連携型
認定こども園 保育教諭

(1) 幼児教育を取り巻く大きな変革

子育て関連3法【参照 資料1】に基づく、子ども・子育て支援新制度が平成27年4月よりスタートしました。「全ての子どもに質の高い幼児期の教育・保育を」という理念の下、幼稚園と保育所の機能の両方のよさを合わせもつ「幼保連携型認定こども園」は、学校であり、児童福祉施設である、新しい幼児教育施設として動き始めました。

また、教育及び保育の内容を策定した、幼保連携型認定こども園教育・保育要領【参照 資料2】が告示されました。



(2) 教育と保育

今まで、幼稚園は、**幼稚園教育要領**に示されている学校教育法に基づいた「教育」を、保育所は、**保育所保育指針**に示されている児童福祉法に基づいた「保育」を行ってきました。そして、**幼保連携型認定こども園**では、**幼保連携型認定こども園教育・保育要領**に即して教育及び保育を行っていきます。【参照 **資料3**】

私たち保育者は、新たな制度が始まった今こそ、幼稚園・保育所それぞれが行ってきた教育・保育を振り返り、共に子どもを中心に考え、**幼児期にふさわしい教育・保育**を目指していくことが重要です。

大切なのは、保育者が教育・保育の内容について明らかにし、**共通理解**をして実践につなげていくことです。



環境を通して行う教育及び保育^(※)が基本

※【参照 **資料3**】 環境を通して行う教育及び保育

- ♥ 安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を積み重ねられるようにすること
- ♥ 園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること
 - ❖ 興味や関心に基づいた直接的・具体的な体験が得られる生活
 - ❖ 友達と十分に関わって展開する生活
- ♥ 遊びを通しての指導を中心として「ねらい」が総合的に達成されるようにすること
- ♥ 園児一人一人の特性や発達の過程に応じること



幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読むポイント

幼稚園においては、**幼稚園教育要領**には掲載されていなかった部分を
保育所においては、**保育所保育指針**には掲載されていなかった部分を
そして、教育・保育要領の**幼保連携型認定こども園**の特に配慮すべき事項に
注目して読み解いていきましょう。



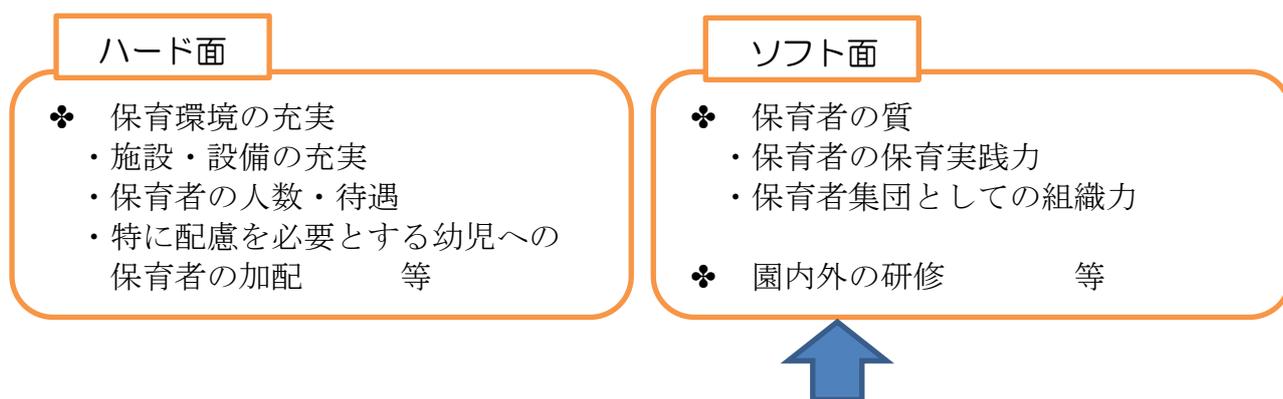
2 幼児期の教育・保育の「質」について

これからの幼児教育には、その「質」が重要であることは言うまでもありません。私たちは、この「質」の中身を明らかにして、次のような教育・保育を目指していきましょう。

- 一人一人を大切にし、幼児に寄り添う教育・保育
- 幼児の自発性や主体性を育てる教育・保育
- 発達を理解し、適切な援助、環境の構成などを工夫して実践していく教育・保育

では、幼児期の教育・保育の「質」とはどのようなもののでしょうか。

「質」については、物的環境（施設・設備）・人的配置等の **ハード面** と、教育・保育の内容・方法といった **ソフト面** の両面があります。



ここでは、ソフト面の「保育者の質」と「園内外の研修」に視点を当てていきます。

❖ 保育者の質 ❖

- ・ 幼児に対して愛情をもち、温かいまなざしを向け、幼児の心に寄り添う関わりをする。
- ・ いろいろなことを受け入れていこうとする姿勢をもち、教育・保育の知識や技術を主体的に学ぼうとする。
- ・ 専門職としての自覚をもち、幼児を理解し、(個々の内面の理解・発達の過程の理解等) 幼児一人一人との信頼関係を築くとともに、保護者との連携を図る。
- ・ 環境を通して行う教育・保育を理解し、発達の見通しをもってねらいと内容を設定し、計画的な環境の構成を図る。



保育者の質には、「保育者の保育実践力」と「保育者集団としての組織力」が求められます。

保育者の保育実践力

- ・ 幼児が発達に即した体験を積み重ねていくことができるように保育の計画を考える。
- ・ 幼児が人やものに主体的に関わり、心を揺さぶられる経験や友達と共に生活する喜びを積み重ねていくことができるようにする。
- ・ 幼児一人一人が生き生きと自分らしさを発揮し、思いが実現できる生活を保障する。
- ・ 保育を振り返り、自己評価を重ね、次の保育の計画に生かしていく。

保育者集団としての組織力

- ・ 園長がリーダーシップを発揮し、職員の意欲を高める。
- ・ 主体的に学び、向上しようとする意志をもって、互いに高め合う。
- ・ 個々の得意な分野を生かし合い、幼児の豊かな活動につなげる。
- ・ 保育者同士が、コミュニケーションを図りつつ、協力しながら支え合う関係を深める。



質の高い教育・保育を実践していくには、保育者の質（保育者の保育実践力、保育者集団としての組織力）の向上が必要です。そのためには、「園内外の研修」の充実が重要です。

❖ 園内外の研修 ❖

- ・ 保育者同士が日常的に幼児の様子や他学年・異年齢の活動の様子を情報交換し、何でも話しやすい雰囲気をつくっていく。
- ・ 園内研修では、研修指導員や園長等が経験年数の少ない保育者や、幼保間の異動者等の保育における戸惑いを受け止め、共に幼児の姿の読み取りや環境の構成を考え、具体的な関わり方をアドバイスすることでサポートしていく。
- ・ 園外研修では、様々な内容の研修で得た学びを職員間で伝達し合い、自園の実態に合った生かし方を検討し、実践につなげる。

♡ 質の高い教育・保育の営み ♡

日々の園生活の中で、幼児の姿の捉え方や保育者の関わりを見直すとともに、これらを取り巻く周りの状況を捉え、そこから今後の見通しを立てていく営みが教育・保育の質を高めていきます。

保育者一人一人が環境を通して行う教育・保育についての意識化を図り、園全体で実践の振り返りと改善に努めていくことが大切です。